

令和8年2月24日

伊集院高等学校

令和7年度 第2回学校関係者評価委員会 報告

1 日時 令和8年2月20日(金) 15:00~16:00(60分)

2 場所 本校会議室

3 日程

- (1) 開会のことば(教頭)
- (2) 校長あいさつ(校長)
- (3) 学校関係者評価委員会について(教頭)
- (4) 各部・各学年からの年間総括
 - ・ 各部から(教務・生徒育成・キャリア育成・保健部の各主任)
 - ・ 各学年から(各学年主任)
- (5) 質疑応答及び委員からの提言等
- (6) 今年度の部活動実績
- (7) 閉会のことば(教頭)

4 出席者

外部評価委員 4名(欠席者1名には資料配付), 本校評価委員 10名 計14名

<質疑応答詳細>

(委員B)

不登校生徒への対応「学びの保障」について、オンライン授業を実施しているのか。

(教務主任)

オンライン授業は実施していないが、教科によってはスタディサプリという学習ソフトを使って学習を進め、取組次第である程度授業を受けたものとみなしている。

(委員A)

単元テストに変えたことによってどのような成果が出ているか。

(教務主任)

生徒が単元テストに対して主体的に取り組んでおり、模擬試験の成績が落ち込むようなこともない。今後も引き続き検討を重ね、学力向上につながるようなテストにしていきたい。

(キャリア育成部主任)

今年の共通テストの成績は良好であった。もちろん生徒の頑張りもあるが、単元テストに変えたことによる効果も少なからずあるのではないかと。

(委員A)

校則等の見直しを行った際、主体的に取り組ませるためにどのような手立て取ったのか。

(生徒育成部主任)

学校生活・学業に適した髪型、社会通念上通用する髪型であるか、アンケート等も活用しながら常に自分自身を振り返るよう声かけをしている。毎年生徒が入れ替わるのでいかに浸透させるかが課題であるが、繰り返し語り込んでいくしかないと考えている。

(委員A)

AI も進化し変化が激しい中で、主体性をいかに育てるかが重要である。伊集院高校の取組をぜひ中学生や地域の保護者に発信してほしい。

(委員D)

保健部の目標に「清掃活動の徹底」とあるが、地域の清掃活動は行っていないのか。

(保健主任)

学校周辺と市街地のゴミ拾いや落葉の片付けを中心に清掃を行うクリーン作戦を年1回計画しており、今年度は昨日実施したところである。

(委員A)

自己調整学習について、動機づけや学習方略を教える上で何か工夫していることはないか。

(3学年主任)

進路目標を早い段階から常々考えさせている。また、自分が将来取り組もうとしていることを堂々と人に語れるようにすることが大切だと伝えている。方略については、「今取り組んでいることが将来にどう繋がるのか」ということを各教科で指導している。

(キャリア育成部主任)

3年生の放課後講座も以前は全員を対象としていたが、今は生徒本人のペースに合わせて受講させている。生徒自身で、自分に何が必要かを考えることが重要だと思っている。

(委員A)

自己推薦などで早く進路が決まった生徒(中学生)が、他の生徒と同じように卒業まで頑張れるような手立てがあるとよい。

(委員C)

伊集院高校は校則がなくなったという間違っただ情報が伝わっているのが残念である。気づき・考え・行動する(伊高3K)生徒の育成を前提とした校則の見直しであることを、中学生や保護者に理解してほしい。

(委員B)

頭髪の規定は、生徒会で話し合い生徒達が決めていくような自主性にまかせてもよいのではないか。

(委員B)

学校評価アンケートの生徒質問項目18「伊高での生活は、充実しており、後輩の中学生にも勧められる学校である。」について、伊高の良いところを具体的にSNS等で発信できるとよい。逆に良くないところも拾い上げ、改善へ向けて学校全体で話し合い、良い学校へしたいという想いが伝わるとよい。

(委員B)

生徒募集へ向けて、伊集院高校の良いところを外向けにどんどん発信してほしい。具体的には以下の3つ。

- ①自然豊かな環境で、落ち着いた雰囲気の中で学べる。
- ②地元の課題をテーマにした学習に取り組み、地域密着・地域貢献を実践している。
- ③「一人一人に目が届く指導」、「先生との距離が近い進路サポート」、「部活動で全員が主役になるチャンスあり」など、小規模校だからこそその強みがある。